

## 4-1-5-9 神経内科

### 1. 診療内容

#### 1.1 対象とする疾患

神経内科は、脳性麻痺・てんかん・知的障害・発達障害・神経変性疾患・先天性代謝異常症・筋疾患・末梢神経障害などの神経系疾患の一般診療と共に、小児救急疾患である急性脳炎・脳症、髄膜炎なども、救急診療部・集中治療部と協力して診療に従事した。

平成 16 年度内に新規に診断し治療した代表的な疾患としては、先天代謝異常症としては、ピルビン酸脱水素酵素欠損症やミトコンドリア異常症、感染症としては、亜急性硬化性全脳炎 (SSPE)、単純ヘルペス脳炎、HHV6 脳炎、本邦では稀な乳児ボツリヌス症、神経筋疾患としては、先天性ミオパチー、筋ジストロフィー、遺伝性感覚運動ニューロパチー (Charcot - Marie - Tooth 病)、ギラン・バレー症候群などがあげられる。てんかんでは、脳神経外科と協力して外科的な治療のための診断検査などを行なった。

#### 1.2 検査・治療の概要

診断に必要な検査として、頭部画像検査 (核磁気共鳴画像、CT スキャン)、脳血流シンチグラム、神経電気生理検査 (脳波、誘発電位、末梢神経伝導速度)などを、外来または入院にて施行した。また、筋ジストロフィーなどの筋疾患などについては筋生検を施行し、遺伝性神経疾患については遺伝診療科の協力の下で遺伝子検査にて診断を行った。

### 2. そのほかの院内外の活動

#### 2.1 院外活動

社団法人全国訪問看護事業協会の依頼で、岡が平成 16 年 8 月 21 日に訪問看護ケア研修会にて「小児の疾患と病態生理の理解」のタイトルで講演を行った。

#### 2.2 院内活動

院内の研修教育活動であるイブニングセミナーでは、長澤が「脳波と誘発電位 基礎と実例」、岡が「未熟児の脳障害 脳室周囲白質軟化症を中心に」のタイトルで講演した。そのほか、当院外来看護部門で 4 回シリーズの教育セミナーを行い「小児の神経疾患 重度心身障害児の病態を中心に」「てんかん よくある質問とその答え」「知的障害・ADHD・学習障害」「遺伝性神経疾患への対応のしかた」のタイトルで、最近の小児神経領域でのアップデートな知識を説明した。また救急診療部では、岡が「急性発症の小脳失調・歩行障害」のセミナーを行い、救急現場での見方、検査の進め方などについて説明した。